

日本学術会議 基礎医学委員会 神経科学分科会 (第 26 期・第 1 回)

議事要旨

**開催日時：** 2024 年 3 月 23 日 (土) 17 時—18 時 30 分

**開催場所：** オンライン

**出席者 (敬称略・順不同)：** 池田和隆、伊佐正、今水寛、入来篤史、榎本和生、大隅典子、岡部繁男、岡本仁、上口裕之、上川内あづさ、河崎洋志、菊水健史、後藤由季子、銅谷賢治、坂内博子、平田たつみ、藤山文乃、宮川剛、柚崎通介

**欠席者：** 久保郁、吉村由美子、渡辺雅彦

**審議事項：**

1. 役員を選出

互選により柚崎が委員長として選出された。委員長により、藤山委員、上口委員、渡辺委員がそれぞれ、副委員長、幹事、幹事として指名され、委員により承認された

**懇談事項：**

1. 今期の活動方針について

設置申請時に掲げた本委員会における今期の審議事項 4 点について説明し、具体的な方針について懇談を行った。

①「神経科学の倫理的課題に関する事項」については、前期中に発出ができなかった見解について、第 26 期の委員でもシェアして意見を求め、完成させて提出という流れで進める。

②「持続的発展を担う研究環境の整備や人材育成」については、関連する官民のいくつかの仕組み (文科省ライフサイエンス委員会・脳科学作業部会、日本学術会議の関連委員会・分科会 [脳とこころ分科会・アディクション分科会等・研究評価分科会・学術研究振興分科会・学術体制分科会等]、学協会 [脳科学関連学会連合、生物科学学会連合等]、NPO 法人 [JAAS での研究環境改善 WG、社会連携 WG、脳の世紀等]) について共通の理解を深めた。

特に生物科学学会連合で現在討議されている科研費増額署名活動について、後藤委員から説明があり意見交換を行った。

研究環境や人材育成、特に任期制度や雇い止め問題については、学術領域を越えた一般的な問題である一方で、特に神経科学分野においては研究内容の高度化や多領域化とあいまって特有の問題が存在することについて確認した。

そこで、第26期神経科学分科会では他の学術領域とも連動しつつも、神経科学に特有の問題を解決するために、官民のさまざまな委員会や会議体とも連携して、日本学術会議としての利点を活かして見解や提言を発出していく方向について合意した。

③「長期的視野での学際的研究の推進に関する事項」や④「国際学術協力の推進に関する事項」については、前期に提出したグランドビジョンについて確認した。グランドビジョンからロードマップ収載への道筋については現状では不明な点が多いことから、学術研究振興分科会の活動を当面は見守り、必要に応じて今後の方針を議論することとなった。

## 2) 今後の活動方針

- ・ 提言の提出—研究費、人材育成について関係諸機関や他の学術領域とも連携しつつ、神経科学特有の問題をカバーして本分科会から見解や提言を出す方向で継続審議を行う。
- ・ 7月に対面で第2回神経科学分科会を計画する。
- ・ グランドビジョンについては経過を見守る。
- ・ 分科会としてのシンポジウム開催については継続審議を行う。その他